

蒲原小中一貫校校舎建設基本計画【概要版】

◆計画の目的

本計画は、静岡県清水区蒲原地区にある二つの小学校（蒲原西小学校及び蒲原東小学校）と蒲原中学校を一体とした施設一体型小中一貫校の新設を求める地域の方々からの要望を踏まえ、9学年すべての子どもたちが共に学ぶことのできる地域の特色が活かされた新校舎を建設することを目的とします。

基本的な施設計画の前提条件は次のとおりです。「蒲原中学校敷地内に小中一貫校を建設する。」「仮設校舎を極力使用せず、既存校舎を利用しながら新校舎を整備する。」「保護者や地域と連携し、安心安全な通学手段を確保する」

令和3年度には、保護者、学校関係者及び地域の方々等の参画により、新校舎建設に関するワークショップを開催しました。

◆整備コンセプト

ワークショップで寄せられた意見を反映した施設構想を踏まえて、施設一体型小中一貫校を整備します。以下の5項目を整備コンセプトとします。

①<児童・生徒が自ら学ぶ意欲を引き出す学校>

国際的な視野を持ち、地域社会に貢献できるグローバルな人材として、自らの未来を切り開く「たくましくしなやかな子どもたち」を育むため、子どもたちが自らの意欲をもって学ぶ環境が充実した施設を目指します。 →小中交流スペース (ICT室)、地域交流スペースなど

②<児童・生徒、教職員、地域住民との交流を推進する学校>

児童・生徒の積極的な異学年交流や小学校・中学校の教職員の円滑な授業交流を促すとともに、だれひとり取り残さないインクルーシブ教育に配慮した施設を目指します。また、社会とのつながりを大切にし、蒲原の子は蒲原で育てる地域と一体となった学校づくりに向けて、学校と地域との交流が図りやすい施設を目指します。 →特別支援学級、小中交流・地域交流スペース、学校図書館など

③<安全・安心ですべての人にやさしい学校>

児童・生徒、教職員、地域住民等のすべての人が利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに配慮した心身共に健康な学校生活を送ることができる施設を目指します。また、災害等の避難場所としての運用も考慮した機能的な施設を目指します。 →エレベーター、多機能トイレなど

④<環境や風土に配慮した学校>

学校は地域の拠点であることを考え、校舎からは富士山が望め、蒲原地域との調和を保ちつつ落ち着いた外観とし、地域の気候や温暖化が進む将来を考えた環境設備を整備し、修繕・修理・管理に配慮した施設を目指します。 →地域交流スペース、テラスなど

⑤<長く使い続けられる柔軟性のある学校>

教育内容の変化や子どもたちの多様なニーズに応じた学びの形に対応する柔軟性、機能性の高い施設を目指します。また、児童・生徒数の変動を見据えながら、耐久性を確保し、長く使い続けられる施設とします。 →多目的教室、多目的スペース、地域交流スペースなど

◆配置計画の概要(案)

【特徴】

- ・南側に配置された教室は、自然採光などの室内環境が充実している。
- ・まちづくり、地域活動等の地域の拠点としての活用によって多様な交流の場となる。
- ・小・中にそれぞれ昇降口を設け、特別教室は2階に配置し、各教室からのアクセスが容易である。

【予定建物面積】

- 延床面積 : 約 7,700 m² (ピロティ部分を含む)
- 階数 : 地上3階建て
- 構造 : 鉄筋コンクリート造

【ワークショップ等による提案事項】

該当する
整備コンセプト

- ・地域交流スペースの設置 ①②⑤
- ・蒲原地区の魅力や歴史について学べる場 ②④
- ・異学年交流を図るランチルームの設置 ②⑤
- ・グラウンドに面したテラスの設置 ②④
- ・富士山を望める校舎 ④
- ・児童生徒同士の交流を促すラウンジやベンチ等の設置... ②
- ・自習室やICT教室の設置 ①⑤
- ・屋上の有効利用 ③④
- ・中庭や畑、ピオトープの整備 ②④
- ・遊具の設置 ②



【施設整備のイメージ】

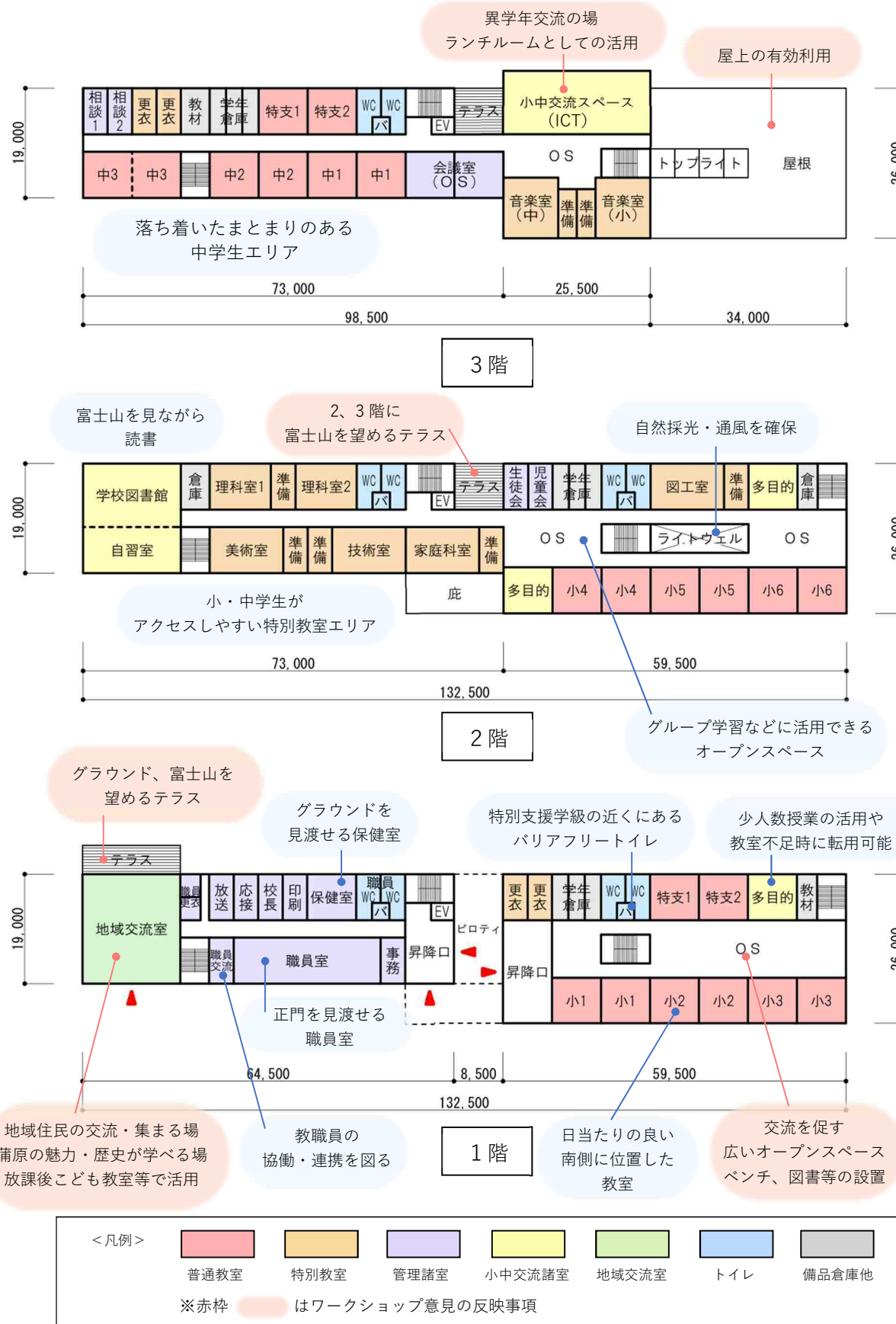


グラウンドを見渡せるテラス



テラスを使ったイベント

◆平面計画の概要(案)



【施設整備のイメージ】



◆普通教室の検討(小学校・中学校共通)

- ・1教室35人学級とした場合、新JIS規格(650×450)の机が机間巡視の寸法を確保して、5×7列に配置できるスペースを基本とします。
- ・教室の規模は68㎡を標準とし、奥行・間口寸法については、今後の設計段階で合理的なスパンや柱寸法等により再検討を行うこととします。

標準教室 レイアウト	教室寸法：8.5m×8.0m
	<p>【通路寸法の目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間：400mm ・机前後間：850mm <p>最低1mの身体的距離を確保</p>
情報機器 ICT環境	<ul style="list-style-type: none"> ・投影機器(プロジェクター)やスクリーンにより、ICT環境の充実を図る。 ・投影機器(プロジェクター)は電子黒板機能付きとする。

※上記の表は、文部科学省の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について(最終報告)」をもとに、作成しています。

◆今後の事業スケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本計画	基本計画	基本設計+実施設計				
解体工事			解体工事			
新校舎建設工事				新校舎建設工事		
4月開校					4月開校	
解体工事						解体工事

※現時点で想定される最短のスケジュールです。

今後の設計業務や工事等の進捗状況により、変更になる場合があります。

本資料における「配置図」及び「各階平面図」については、現時点で予定しているものであり、今後の基本設計・実施設計の検討に伴い、変更する可能性があります。

イラスト出典：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について(最終報告)」